

その他

北見道路安全連絡協議会に携わった4年間の活動記録

(一社)北海道土木施工管理技士会
松谷建設株式会社
土木部工事課長
前川幸治

1. はじめに

平成21年度から平成28年度の期間に携わった「北海道横断自動車道（訓子府町美園～北見市西IC 延長23km区間）」において、平成25年より平成28年の4年間、発注者から指名を頂き『北見道路安全連絡協議会』の会長を務める事となった。

そこでこの4年間実施してきた、協議会における主な活動についてここに記す。

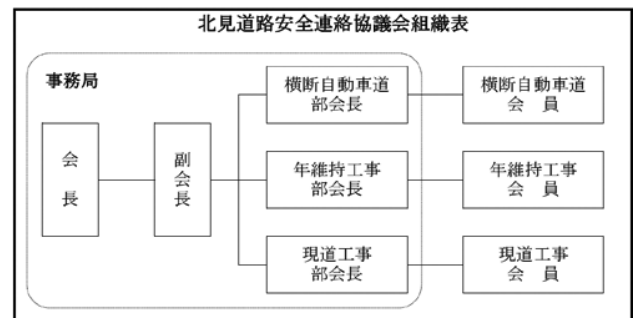
○北見道路安全連絡協議会とは、

網走開発建設部北見道路事務所管内の国道の工事を施工する建設会社で組織している協議会である。国道の工事において、各建設会社間で情報共有すると共に、安全対策など各工事の共通事項について、一緒に連携して活動していく事を目的としている。

協議会は大きく分けて横断自動車道部会、年維持工事部会、現道工事部会の3部会に分かれており、月毎の恒例行事である安全パトロール等の協議会開催時においては全部会が一緒に活動するが、横断自動車道部会、年維持工事部会においては部会毎の行事も各々に実施している。

今回は主に私自身が所属した横断自動車道部会における活動に重点をおいて、その実施内容について記述する。

表-1 北見道路安全連絡協議会組織表



工事概要（横断自動車道部会）

- (1) 工事名：北海道横断自動車道
訓子府町 ○○○○工事
- (2) 発注者：北海道開発局網走開発建設部
担当事務所：北見道路事務所
- (3) 工事場所：北海道常呂郡訓子府町
- (4) 工事数：平成25年度
橋梁5、改良16、舗装1 計22件
平成26年度
橋梁4、改良6、舗装4 計14件
平成27年度
橋梁1、改良10、舗装3 計14件
平成28年度
橋梁1、改良9、舗装10 計20件
- (5) 工事延長：SP55,800～SP72,500(訓子府工区)
延長 L=16.7km

2. 現場における問題点

北海道横断自動車道の建設工事にあたっては、全道各地から集まってきた建設会社が工事を施工している。高規格道路は工事特性的に大規模土工事および舗装工事が主体となるため、訓子府町内の道道・町道などを使用して工事車両が往来することになり、沿道の住民の方々には多大な協力を頂いている状況となっている。

夏期から秋期にかけての工事繁忙期においては、横断自動車道全体で、大型重機が常に50～70台稼働しているため重機労働災害が懸念された。

また、総計100～150台ともなるダンプトラックが現場内と訓子府町内の公道を走行するため、道路および現場出入口における交通事故、道路汚損・粉塵などへの対策が必要であった。

その様なことを踏まえ、各現場においては個々に安全活動・環境保全対策は行っているが、高規格道路のような大規模工事では、場内運搬路・現場出入口など隣接する工事との共有部分が多く調整が必要となるため、北見道路安全連絡協議会(横断自動車道部会)などを利用した、全員参加による総括的な組織活動が重要であると考えた。

3. 工夫・改善点と適用結果

北見道路安全連絡協議会では重機労働災害、交通事故・環境汚染等の防止に向け、全会員による情報共有の徹底、現場安全パトロールを実施した。

また、地域住民と工事関係者が良好な関係を築いていくため、公共施設等における地域貢献の実施、現場ではどのような人が、どのような作業をやっているか?など、現場内の様子が少しでも分かるように、町主催のお祭り会場で工事写真展を開催した。

その活動内容を、以下1)～4)に示す。

1) 情報共有について

○総合情報サイトを利用した情報共有の確立

年度初めの協議会設立時に発注者と協議のうえ、監督職員と受注業者が利用する情報共有システム

(ASP)の統一化を図った。

統一化によって、全会員が閲覧可能な「総合情報サイト」の掲示板・スケジュールを利用して、安全連絡協議会等のイベント開催通知・その他通達文章など、施工業者および発注者の誰もが、関係者全員に確実に周知することが可能となった。

情報共有システムは、川田テクノシステム(株)の『ベースページ』を使用した。

○横断自動車道部会における ASP の運用

横断自動車道では約20箇所の現場出入口を使用する事となるため、現場での事故時など緊急事態に備えて、現場出入口の明確化が必要であった。

そこで工事着手前に、各現場で使用する現場出入口について施工業者から聞き取りを行ったうえ、出入口看板を統一化し、番号を記した『横断道全体平面図』をASPにアップロードし、その平面図をもとにして、各社が出入口看板を設置した。

また運搬業務における安全体制の強化を図るため、ダンプトラックの所属先が一目で判別できるように、工事現場毎に色分けした『横断道車両プレート』を車両前後に掲げる事を義務付けた。



図-1 横断道車両プレートの一例

2) 現場安全パトロール(協議会全体による行事)

現場安全パトロールは工事が本格的に稼働する6月～12月の毎月行う事とし、横断自動車道に近い訓子府町公民館を活動拠点として開催した。

パトロール班は施工業者・監督職員・支援業務を含む3班体制とし、各班15～20名の組織編制で活動を行った。

パトロールは各班2現場行う事として（現道工事など遠方となる場合は1現場）、現場事務所敷地内と工事現場内の両方について、安全施設関係、作業計画書と実施作業との比較および安全性確認、合わせて資材の保管など施工方法の妥当性について、パトロールを実施した。



図-2 現場パトロール実施状況写真

パトロール結果については、会場に戻った後に賞賛事項・改善事項について各班の代表者が取りまとめを行い、その後、全員の前で発表するとともに、その結果内容について、他の班も含めた出席者全員からの意見聴取も行った。

その指摘事項についての履行確認のため、パトロールを受検した現場で改善が指摘された場合は、翌月までに改善を実施し、その内容をパワーポイントに取りまとめたうえ、翌月の安全パトロール後に全員の前で発表を行った。



図-3 改善報告発表状況写真

3) 地域貢献（横断自動車道部会にて実施）

地域貢献にあたっては、年度初めに各自治体および訓子府町役場の担当者と、町内の公共施設の補修案件など要望についての聞き取りを行った。

その後、現地に赴き、その要望内容について照合確認のうえ取りまとめを行ない、後日、横断自動車道の関係各社を当現場事務所に集め、その補修案件について概要説明を行ったうえ、最後に自発参加で業者を募集した。

表-2 平成28年度の地域貢献内容

平成28年度 地域貢献実施内容	参加 業者
① 訓子府町開基120年記念「町民大運動会」 内容：グラウンド整備・会場設営	1社
② 訓子府小学校施設整備 内容：遊具等ケレン・色塗り	4社
③ 訓子府中学校施設整備 内容：学校敷地内（野球場整備）	3社
④ 第37回くねっぷふるさとまつり 内容：のぼり設置・撤去	2社
⑤ 訓子府町中央公園整備 内容：噴水整備（ひび補修・水道管補修）	1社
⑥ 居武士小学校開校100周年記念「大運動会」 内容：グラウンド整備・運動会当日屋台開催	4社

実施箇所の大半は、公園など地域住民の集いの場となっている場所が多く、ちょっとした雑談などで住民と施工業者のふれあいの場になった。



図-4 ⑤中央公園の噴水整備状況写真

地域貢献完了後、参加した施工業者に対し、訓子府町長・教育長から感謝状が授与された。

4) 工事写真展（協議会全体による行事）

一般の地域住民の方々は通常、遠巻きに垣間見る重機や公道を走行しているダンプトラックなどの工事車両を見る程度であり、発注者が主催する現場見学会などに参加しないかぎり、現場の中身を知る機会がほぼ皆無である。

そこで平成25年から平成28年の4年間、現場内の状況を知って貰うため、訓子府町主催の「くんねっぷふるさとまつり（7月上旬開催）」と、商工会議所主催の「くんねっぷ秋まつり（9月下旬開催）」の年2回、素人縁日会場の一角を借用して『北海道横断自動車道工事写真展』を開催した。

工事写真展は横断自動車道部会・年維持工事部会・現道工事部会に所属する全会員に、ASPにより現場の良い写真の提出を呼びかけ、事務局でA3パネルに加工したうえ、会場に展示した。（平成28年度の秋祭りでは74枚のパネルを展示した）

また発注者からの要望で、工事写真展の一角に高速道路のPRポスターを数点展示した。



図-5 工事写真展開催状況(1)

合わせて、来場した子供達や家族連れを対象に、エアークラフト1000個・水ヨーヨー500個・維持車両のペーパークラフト100枚などを無料配布するとともに、働く車のミニカー展示を行った。

お祭りのスタッフは協議会会員・発注者監督職員数名が交代で行い、「ふれあいは笑顔から」を合い言葉に、来場する住民との交流を深めた。



図-6 工事写真展開催状況写真(2)

○現場空撮動画の放映

平成27年度と平成28年度の「くんねっぷ秋まつり」においては、施工状況を工事区間全線に渡ってドローンで空撮したうえ、テロップ・BGMも含め30分程度に編集して動画を作成した。

その動画を工事写真展で終日リピート放映したところ、地元の方々には大変好評であった。

4. おわりに

以上が私自身の北見道路安全連絡協議会会長として4年間実施してきた主な活動であり、その間、小さな事故は数件発生したが、死亡事故など重大災害は皆無であった。

また道路の汚れなど地元からの苦情も数件あったが、当協議会および施工業者の早急な対応により、工事全体に影響を与えるような事案には発展せず、無事、終了する事が出来た。

地域貢献・工事写真展などのイベント開催においては、工事の内容を知って貰うには良い機会であったとともに、来場した住民と直接ふれあうことで地元とのコミュニケーションがはかれ、良好な関係が構築出来たことは、これからも続く建設工事に良い影響を与えて行く事と思う。

最後になるが、この様な長期間に渡る工事を円滑に進めて行くには、各企業の高度な技術力も必要であるが、そこに根付く地元住民の理解を得る方法を模索していく事が、一番必要なのかもしれない。